

平成２２年１２月２２日開催

石狩市教育委員会会議（１２月定例会）資料

<協議事項>

- 1 全国学力・学習状況調査結果の公表について（別冊）

<報告事項>

- 1 平成２２年度「いしかり情操教育プログラム」事業の実施報告について
・・・・・・・・P 1～P 2

石 狩 市 教 育 委 員 会

<報告事項>

1 平成22年度「いしかり情操教育プログラム」事業の実施報告について

【平成22年度試行事業】

■ 情操教育セカンドプログラム “ The Music ”

1 事業の目的・ねらい

市内中学生が、即興（アドリブ）や掛け合い等の要素が組み込まれた「ジャズ音楽」の鑑賞を通して、演奏者同士の息の合った高度な演奏テクニックはもとより、全身全霊をささげて演奏に打ち込む姿や生演奏の迫力を間近で体験するとともに、情操（美しいものや優れたものに触れ感動する心）や豊かな感性、コミュニケーション能力を育むこと、協調性の大切さを学ぶこと、音楽が持つ可能性や素晴らしさを再認識すること等を目的として開催する。

2 日時

平成22年11月17日（水） 10：58～12：15

3 場所

アートウォーム（花畔1条1丁目56）

4 参加者

石狩中学校 全校生徒108名（1学年27名、2学年44名、3学年37名）

5 主な内容

ジャズ音楽の鑑賞、生徒参加による「パーカッションの体験セッション」など

6 演奏者

奥野義典（サクソ、フルート） 中島弘恵（ピアノ）
北垣 響（コントラバス） 竹村一哲（ドラム）

7 当日の流れ

10：58 ・MC①（奥野さんから、はじめの挨拶）

11：00 ・演奏1曲目

「My Heart Belongs To Daddy」（コール・ポーター作曲）

・MC②（メンバー紹介、曲紹介）

・演奏2曲目

「一歩ずつ」（中島さんオリジナル曲）

・MC③（中島さんからメッセージ、ジャズ音楽の説明）

・演奏3曲目

「G JAM Blues」（デューク・エリントン作曲）

～二つの音階「ド」「ソ」しか使わないシンプルなテーマから、
どこまで音楽を広げ発展させることができるかを体験する～

・MC④（「パーカッションで一緒にセッションしよう！」の呼びかけ）

・パーカッションの体験セッション

～演奏4曲目「St. Thomas」（ソニー・ロリンズ作曲）

※生徒約15名が参加、各楽器パートのリズムづくりからセッションへ発展

・MC⑤（北垣さん、竹村さんからメッセージ）

・演奏5曲目

「ハニカマナイ王子」（竹村さんオリジナル曲）

・アンコール ～演奏6曲目「プゼレント」（奥野さんオリジナル曲）

<報告事項>

- ・MC⑥（奥野さんからメッセージ、終わりの挨拶）
- 12：15 ・生徒代表からお礼のことば

8 アンケート結果

満 足 度	全 体	1 年 生	2 年 生	3 年 生
とても感動した	42 (38.9%)	15 (55.6%)	12 (27.3%)	15 (40.5%)
感動した	54 (50.0%)	11 (40.7%)	21 (47.7%)	22 (59.5%)
あまり感動しなかった	7 (6.5%)	1 (3.7%)	6 (13.6%)	0 (-)
感動しなかった	5 (4.6%)	0 (-)	5 (11.4%)	0 (-)

参加者全体の 88.9%が「感動した」と回答

(以下、主な感想などを抜粋)

- ・楽器の一つ一つが主張しあっていて、身体に入り込んでくるような演奏でした。
- ・演奏者同士の音のコミュニケーションが、心に響いた。
- ・ジャズというのは、ただ弾くだけではなく、語り合うということを知った。
- ・演奏体験をして恥ずかしかったけれど、大勢の人の前で演奏することは楽しいことだと思った。
- ・「ソ」と「ド」の音だけで演奏していた曲はすごいと思った。たった2つの音なのに、きちんと音楽になっていたの、少ない音でもきちんと音楽が作れることがわかった。
- ・初めてのジャズのライブを鑑賞して、鳥肌が立ちました。
- ・リズムに乗って、楽器を鳴らすことがとても楽しかった。
- ・特に、「ド」と「ソ」の音で吹く、「C JAM Blues」の音の強弱や長さを変えて演奏するところは心に響きましたし、すごいと思いました。とても息が合っていて上手でした。
- ・あんなに間近で観たことがなかったから、とても良かったです。
- ・音楽で人と人がつながるということが、とてもよくわかりました。



平成22年度 全国学力・学習状況調査の分析結果

全国学力・学習状況調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を調査することを目的に平成１９年度から実施しています。

平成２１年度までは、すべての小中学校を対象として実施してきましたが、今年度から抽出調査及び希望利用調査方式に切り替えられました。

以下において、「全国」と記載しているデータについてはすべて抽出調査分です。

また、北海道においては、前述の抽出調査にあわせて希望利用調査分を独自に採点、集計し、両者を合算したデータを作成しており、「全道」と記載しているデータについては抽出調査と希望利用調査の合算データとなっています。（ただし、合算分には札幌市は含まれていません。）

※問題の詳細については、「国立教育政策研究所」のホームページを参照してください。

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果分析【小学校国語】

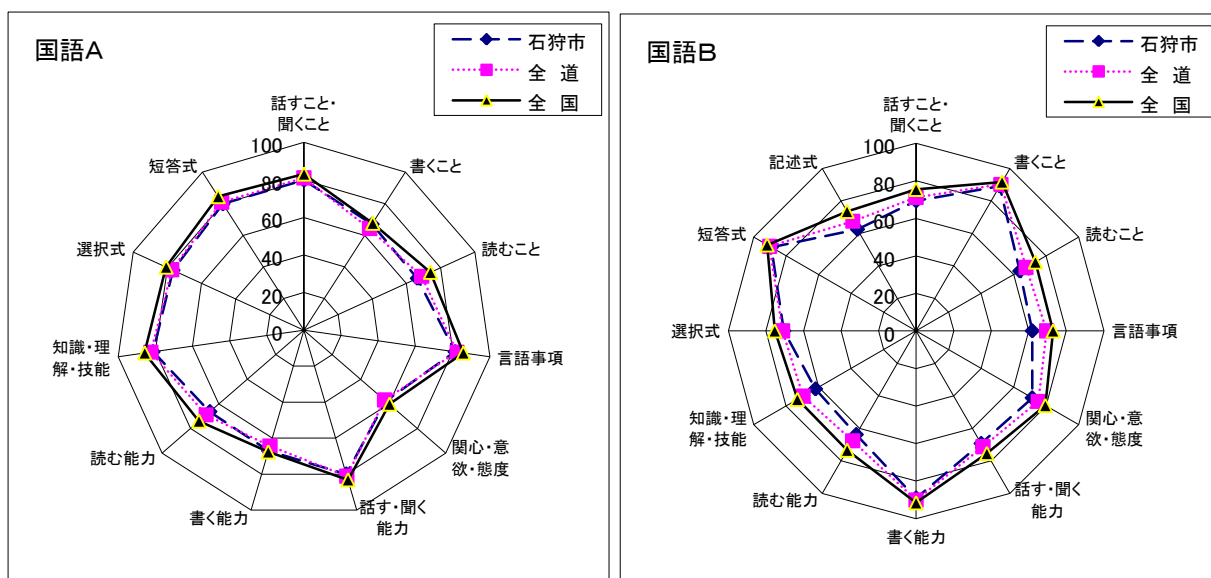
□ 正答率の状況 □

		国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
		平均正答数	平均正答率(全国差)	平均正答数	平均正答率(全国差)
全 国	抽出	12.5/15問	83.3 (-)	7.8/10問	77.8 (-)
全 道	合算	11.8/15問	79.0(-4.3)	7.1/10問	71.2(-6.6)

全道平均正答率との差	下回る	ほぼ同程度	上回る	下回る	ほぼ同程度	上回る
石 狩 市		○			○	

※ほぼ同程度とは-3.0～+3.0ポイントの範囲

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 昨年度に比べて、「書くこと」がやや上昇
- 漢字の読み書きなどの言語事項に課題
- 内容を読み取り、あらすじや感想を要約することに課題

国語 A（主として「知識」に関する問題）

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識や技能が身に付いているかどうかをみる問題です。短答・選択の解答形式で構成されています。領域別では、「話すこと・聞くこと」では全体構成を工夫して話す。「書くこと」ではメモを基にしたリ、文の構成を考えて書く。「読むこと」では説明文や文学的な文章を適切に読む。「言語事項」では漢字の読み書き、国語辞典の活用、共通語と方言の違いなどに関する内容になっています。問題数は15問です。

- ・「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の領域については、おおむね理解しています。
- ・「読むこと」では、物語の展開に即して人物相互の関係や役割を押さえながら読むことに課題が見られます。

	国語A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	3 内容読取	登場人物の関係を捉えて書く	57.0%	59.6%	65.0%

- ・「言語事項」では、既習の漢字の正しい読み書き、共通語と方言の違い（特質）を押さえそれぞれの使い分けを区別することなどに課題が見られます。

	国語A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	1一 漢字を読む	1「慣れる」（ナれる）	87.7%	91.8%	96.2%
	1二 漢字を書く	1「ヒサしぶり」（久しぶり）	70.6%	75.3%	80.1%
		3「ヘンカ」（変化）	80.9%	86.9%	90.3%
	8 違いの選択	共通語と方言の使われ方	71.3%	74.9%	81.0%

〈指導の改善にあたって〉

- ・説明文や物語などの読書活動の充実を図り、読書への興味・関心を高めるとともに、語彙力（ごいりょく）をはじめ要旨や登場人物の考え・行動など文章を読み取る力の向上に努めます。
- ・漢字の読み書きでは、繰り返して学習したり、習得した漢字を短文づくりや日記などの文や文章に適切に活用させるなどの指導を通し、基礎的な学力の向上に努めます。

国語 B（主として「活用」に関する問題）

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題です。選択・短答・記述の解答形式で構成されています。領域別では、「話すこと・聞くこと」では資料を効果的に提示して話したり、聞き手を引き付けるように話す。「書くこと」では2つの意見の共通点や相違点を書く。「読むこと」では登場人物の行動や場面の移り変わりの読み取りや理由をまとめて書く。「言語事項」では物語のあらすじを書くことなど、4領域から総計10問の出題です。

- ・「書くこと」については、おおむね定着しています。
- ・「話すこと・聞くこと」では、話し手が聞き手に問いかける聞き方（工夫）についてのとらえに課題が見られます。

(例)	国語B		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
	3 二 自己考察		理由を書く	60.1%	66.5%	73.0%

- ・「読むこと」では、文字数が指定されるなどの条件の下、記述による解答が求められる問題で正答率において全国との差が大きい傾向にあります。

(例)	国語B		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
	2 一 物語読取	1	物語を読み、40～60字 であらすじを書く	61.9%	69.5%	73.0%
	2 二 自己考察		物語を読み、60～80字 で自分の思いや考えを 書く	66.0%	75.2%	82.3%

- ・記述式の問題では全国に比べて正答率が低く、無解答がやや多い傾向にあります。

〈指導の改善にあたって〉

- ・登場人物の行動や場面の移り変わりに注意して作品を読み取り、決められた字数であらすじや自分の考えを書くこと、文章の構成や展開などに着目させながら理由を明確にして書いたり、注目点や強調点をしっかり示して発表することができるよう指導に努めます。
- ・授業や自学自習の場で有効にノートが活用が図られ、学びの連続を一層高めるために、自分の考えをもって、目的に応じてメモをしたり、必要事項を整理して書くなどのノート指導の充実を図ります。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答（好きです、どちらかといえば好きです）は、全国の62.1%に対して石狩市は58.1%でやや低い結果が出ています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国の91.6%に対して石狩市は90.6%でほぼ同じ結果が出ています。
- ・「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全国の82.3%に対して石狩市は80.1%と若干下回っていますが同程度です。
- ・「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は、全国の73.0%に対して石狩市は72.7%とほぼ同じ結果が出ています。
- ・国語の授業の質問に関して、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」、「意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか」、「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」の設問では、肯定的な回答は全国と同等ですが、「文章を読むとき段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」の問いでは、全国よりやや低い回答になっています。
- ・解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」といった肯定的な回答は、全国に比べて石狩市ではA問題で2.5、B問題で6.4ポイント低い結果となっています。なお、A・Bとも無解答率では、石狩市は全国よりやや高い傾向にあります。

平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果分析【小学校算数】

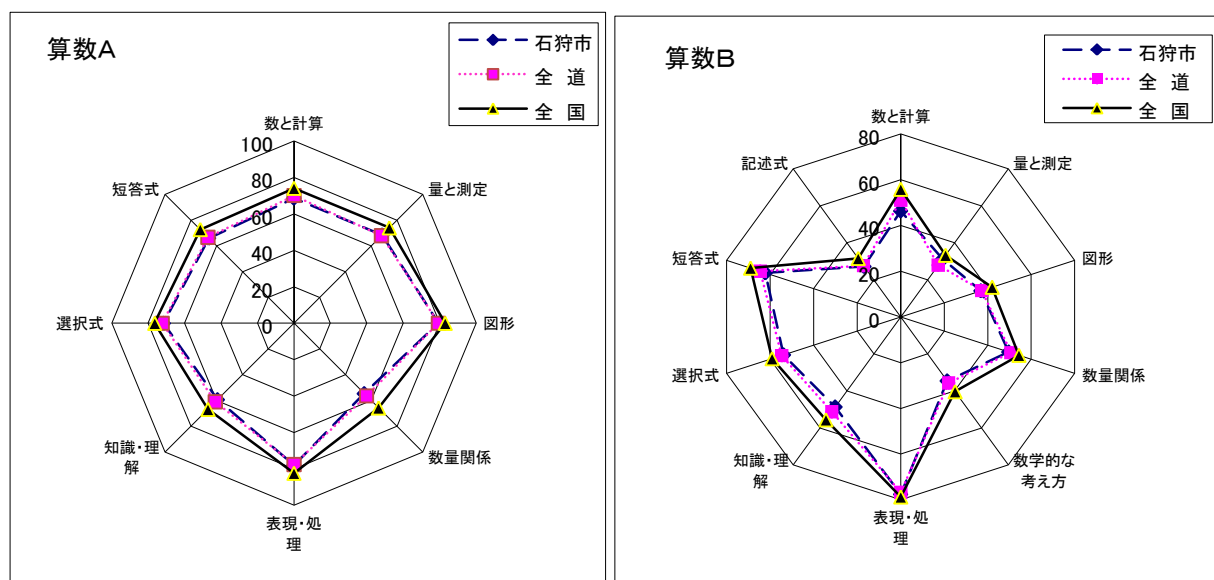
□ 正答率の状況 □

		算数A(主として「知識」に関する問題)		算数B(主として「活用」に関する問題)	
		平均正答数	平均正答率(全国差)	平均正答数	平均正答率(全国差)
全 国	抽出	14.1/19問	74.2 (-)	5.9/12問	49.3 (-)
全 道	合算	12.8/19問	67.2(-7.0)	5.3/12問	43.8(-5.5)

全道平均正答率との差	下回る	ほぼ同程度	上回る	下回る	ほぼ同程度	上回る
石 狩 市		○			○	

※ほぼ同程度とは-3.0～+3.0ポイントの範囲

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 算数科の概要 □

- 整数の四則計算や平面図形の定義や性質については、ほぼ定着
- 小数や分数の計算、除法の意味を理解して計算することに課題
- 計算の順序の決まりを理解し計算することに課題
- 公式を理解し、計算して面積を求めることに課題

算数 A（主として「知識」に関する問題）

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題です。選択・短答の解答形式で構成されています。領域別では、「数と計算」では四則計算・除法（商が1より小さいときに小数や分数で表記）や分数（等分部分を分数で表現）の意味。「量と測定」では円や台形の求積・三角形の補角の大きさ。「図形」では三角形や四角形の定義や性質・立方体の展開図。「数量関係」では混合計算・割合・グラフの読み取りに関するものであり、問題数は19問です。

- 「図形」については、おおむね理解しています。
- 「数と計算」では、四則計算はおおむね理解していますが、「整数－小数」の計算や「整数÷整数」で商が1より小さくなる除法の意味の理解や等分してできる部分を表す分数の理解が十分ではありません。

算数A		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	1 小数の減法	4 8－0.5を計算する	73.4%	75.5%	83.2%
	2 除法の意味	1 8 mの重さが4 kgの棒の1 mの重さを求める式と答えを書く	43.3%	45.2%	53.8%
	3 分数の意味の理解	長方形の黒い部分を表す分数を選ぶ	56.1%	64.4%	68.6%

- 「量と測定」では、台形の面積の求め方の理解が不十分なために、三角形の求積の場合との混同が見られるなどの課題があります。

算数A		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	5 台形の求積	2 上底3cm、下底7 cm、高さ4cmの台形の面積を求める式と答えを書く	56.0%	56.4%	70.1%

- 「数量関係」では、混合計算や割合に関する問題について課題が見られます。

算数A		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	1 混合計算	6 50＋150×2を解く	54.2%	54.0%	65.9%
	9 割合の意味	1 40㎡は50㎡のどれだけの割合かを求める	42.2%	48.4%	57.4%

〈指導の改善にあたって〉

- 平面図形の面積を求めるために公式を正しく活用させなければなりません。台形では図形の特徴に注目させ、「上底＋下底」や「÷2」の意味が充分理解されるよう指導に努めます。
- 混合計算では計算の決まり（カッコや乗除が先）に従って順序正しく計算すること、小数では正しい位取りによる計算、分数の意味の理解については分母が違っても大きさが等しい場合があることを図を使うなどして具体的にとらえさせる指導に努めます。
- 除法の意味の理解や割合に関する問題については、「比較量」と「基準量」を的確にとらえて計算するために、問題文を読み取る力を高めるなど国語科などと関連付けた日常の指導の充実に努めます。

算数 B（主として「活用」に関する問題）

数量や図形についての知識・技能などを実生活の場面に活用する力やさまざまな課題解決のために構想を立てて実践し改善する力をみる問題です。選択・短答・記述の解答形式で構成されています。「数と計算」ではおつりが整数になることへの判断。「量と測定」では三角形の面積の説明。「図形」では示された条件を基にした図形の説明や選択。「数量関係」ではグラフや表の読み取りや割合の利用など4領域すべてにわたって出題されており、問題数は12問です。

- ・「量や測定」、「図形」については、おおむね理解しています。
- ・「数と計算」では、示された式を解釈し、正しく判断することに課題が見られます。

算数B		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
〈例〉	1 金額の判断	1 定価が整数になるおつりの金額を選択する	46.3%	51.0%	55.8%

- ・「数量関係」では、計算の決まりを理解し、おつりを正しく求められるように示された式にカッコを書き加えて式に修正することに課題が見られます。

算数B		設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
〈例〉	1 式の修正	2 はじめの式に()を加え、正しい式に修正する	30.5%	34.5%	42.2%

- ・解答が記述式の設定では、全国に比べて無解答がやや多い傾向にあります。

〈指導の改善にあたって〉

- ・与えられた条件を基に問題づくりをしたり、つくった問題を実際に解く過程において問題の吟味や修正に取り組ませる活動を取り入れるなど、数学的な考え方を高めていく指導に一層力を入れていきます。
- ・算数Aと同様、式をたてて正しく計算したり説明することができるよう、問われていることを問題文から読み取るために、他教科との関連を図り読解力の向上に努める取り組みをさらに充実させていきます。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全国の63.8%に対して、石狩市は、66.1%と若干上回っていますが同程度です。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全国の92.1%に対して、石狩市は、90.4%と若干下回りますが同程度です。
- ・「算数の授業内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全国の78.0%に対して、石狩市は、75.9%と若干下回りますが同程度です。
- ・「問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」、「授業で学習したことは将来役に立つと思いますか」の設定では全国と同等の結果ですが、「授業で学習したことを普段の生活の中で、活用できないか考えますか」では、全国をやや上回っています。
- ・解答時間が「あまった」や「ちょうどよかった」といった肯定的な回答が、A問題・B問題ともに石狩市は全国をやや下回っています。なお、無解答率の割合では、全国に比べて石狩市はやや高い傾向にあります。

平成22年度 全国学力学習状況調査の結果分析【中学校国語】

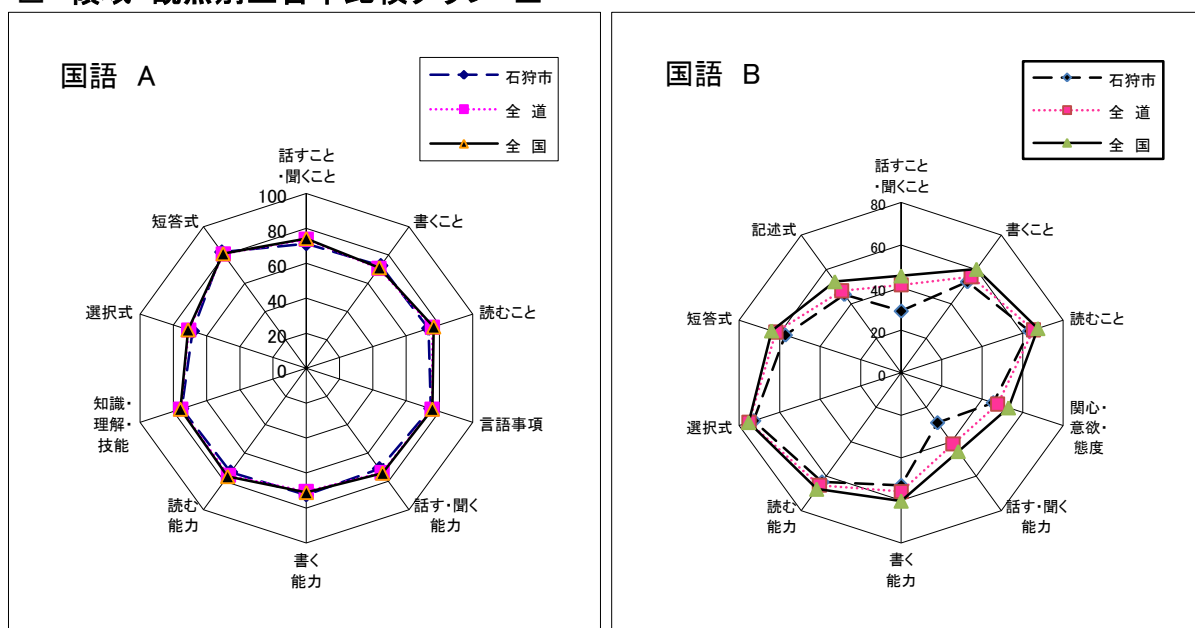
□ 正答率の状況 □

		国語A(主として「知識」に関する問題)		国語B(主として「活用」に関する問題)	
		平均正答数	平均正答率(全国差)	平均正答数	平均正答率(全国差)
全 国	抽出	26.3/35問	75.1 (—)	6.5/10問	65.3 (—)
全 道	合算	26.0/35問	74.2 (-0.9)	6.1/10問	61.2 (-4.1)

全道平均正答率との差	下回る	ほぼ同程度	上回る	下回る	ほぼ同程度	上回る
石 狩 市		○			○	

※ ほぼ同程度とは-3.0～+3.0ポイントの範囲

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 国語科の概要 □

- 基礎的基本的な知識・理解は、年々着実に向上
- 言葉についての基本的な知識は、ほぼ定着
- 筋道を立てて考えたり、基礎的知識を応用して活用することに課題
- 言葉の意味を理解し、活用することに課題

国語 A（主として「知識」に関する問題）

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する定着度を診る問題で構成されています。「話すこと・聞くこと」では説得力のある話し方や聞き取り方、目的に沿った適切な質問の仕方。「書くこと」では読みやすく分かりやすい文章や内容の整理、相手に応じた表現の工夫。「読むこと」では文章や語句の意味や内容を捉える。「言語事項」では漢字の読み書き、適切な使い方等に関する出題内容になっています。問題数は35問です。

- 基本的な漢字の「読み・書き」についてはほぼ全国並み、または、やや上回っています。

	国語A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	10一 漢字を書 く	1 「ソウダン」（相談）	76.0%	73.5%	76.0%
		2 「コウシキ」（公式）	76.4%	74.6%	73.6%
		3 「スガタ」（姿）	86.5%	83.9%	82.1%
	10二 漢字を読 む	1 「冒頭」（ボウトウ）	91.9%	92.5%	92.7%
		2 「衝撃」（ショウゲキ）	97.5%	95.1%	94.8%
		3 「導く」（ミチビク）	97.9%	96.6%	96.3%

- 語句の意味を理解し適切に使うことに課題が見られます。

	国語A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	10三 適切な 語・語句 を選択す る	ア <u>過程</u> を調べる	83.0%	85.2%	84.2%
		イ 会議で決を <u>採る</u>	35.0%	40.6%	43.2%
		ウ <u>ひとえに</u> 母のおかげです	61.1%	64.5%	63.5%
		エ <u>申して</u> おりました	51.1%	52.0%	52.8%
		オ ほうっておけない <u>性分</u>	50.9%	51.2%	48.8%

- 論理や文章の展開に即して内容を理解することに課題があります。

(例)

	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
8一 論理の展開と 内容理解	「鳥とは違う」カモノ ハシの特徴を選択	49.9%	54.2%	56.6%
8二 文章の展開と 内容理解	「ひどい文章」の説明 で適切なものを選択	67.3%	73.7%	74.5%

〈指導の改善にあたって〉

- 接続詞や指示語などに注意して話の筋道を的確に捉え、言葉の使い方を正確に理解することができるよう、読書などの活動を通してさらに指導に努めます。
- 目的や意図、場、相手に応じて、適切にわかりやすく文章を書くよう、指導に努めます。
- 日常生活の中で、自分の考えを持ち、順序立てて考えたり相手の立場に立ってわかりやすく説明することの大切さについて、さらに指導に努めます。

国語 B（主として「活用」に関する問題）

基礎的・基本的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用（応用）することができるかどうかを診る問題で構成されています。「読むこと」を中心に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言語事項」の各領域・事項が重複し、応用・発展した出題になっています。問題数は10問です。

- 新聞に関する設問で、「表現を捉える」「内容をもとに自分の考えを書く」ことは全国平均をやや上回る結果です。「資料提示の工夫と具体的説明」及び「文章内容の説明」には課題があります。

	国語 B	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	1 一 情報読取	新聞記事を読んで、施設の開設年月を読み取る	65.4%	72.4%	74.7%
	1 二 記事表現	記事とコラムを比較する	49.9%	49.9%	48.9%
	1 三 自己考察	記事内容から感想を書く	56.7%	43.1%	51.6%
	2 三 工夫説明	資料の修正方法とその理由を書く	29.0%	41.3%	45.6%
	3 三 自己考察	自分の考えを書く	50.9%	58.4%	62.0%

〈指導の改善にあたって〉

- 自分の伝えたい内容がより効果的に伝わるよう、作成した資料を見直し、聞き手の立場に立って文の内容を組み替えたり、生徒が相互に評価しあうなどの工夫と指導に努めます。
- 発展的な問題で、複数の要素を組み合わせて考えることや筋道を立て考えることに課題が残ります。基礎的知識の充実とともに、順序立てて考えたりいろいろな角度からの見方や考え方ができるよう、日常生活に関連付けた指導に努めていきます。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

- 「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的回答は、全国の57.2%に対して、石狩市は62.1%と、やや高い結果が出ています。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的回答は、全国の89.0%に対して、石狩市は86.6%と、若干下回っていますが同程度です。
- 「国語の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的回答は、全国の69.9%に対して、石狩市は67.3%と、若干下回っていますが同程度です。
- 「読書は好きですか」では、石狩市は「好き」が46.6%で全国より高いのですが、「どちらかといえば」を加えると66.7%で、全国よりやや低い結果が出ています。
- 国語の授業で、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしていますか」「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか」の各設問の肯定的回答率は、いずれも全国より数%低い回答となっています。
- 国語科の無解答率は若干高いもののほぼ全国並です。学習状況調査では、国語A・Bの解答時間が「余った」「ちょうどよかった」の肯定的回答計が全国より数%高い結果が出ています。

平成22年度 全国学力学習状況調査の結果分析【中学校数学】

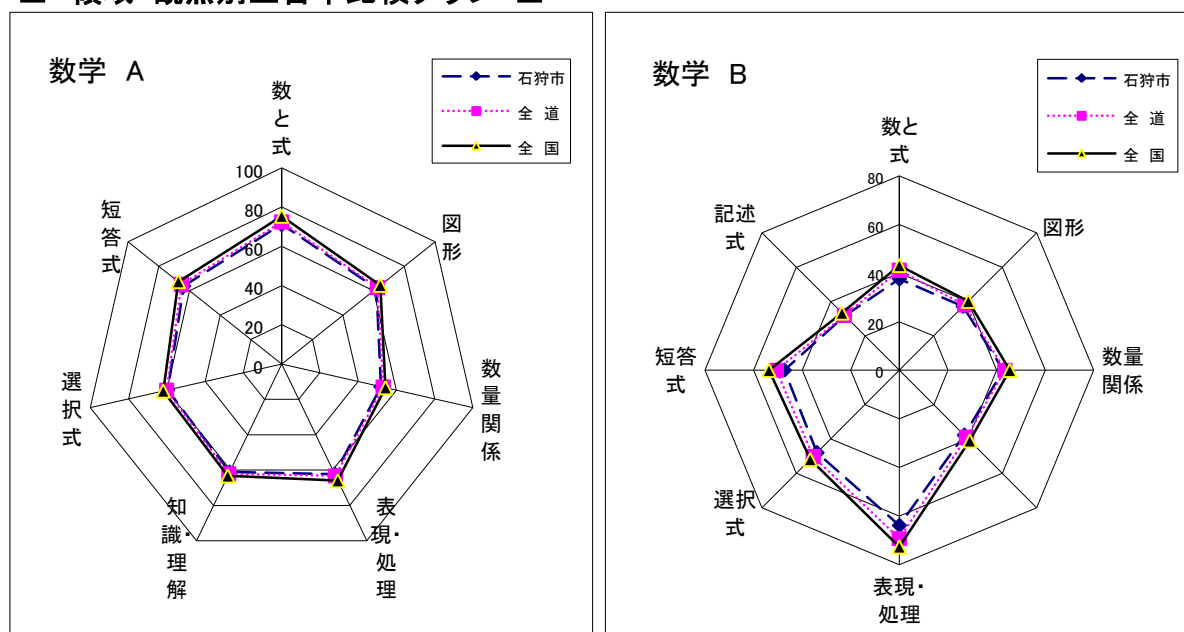
□ 正答率の状況 □

		数学A(主として「知識」に関する問題)		数学B(主として「活用」に関する問題)	
		平均正答数	平均正答率(全国差)	平均正答数	平均正答率(全国差)
全国	抽出	23.3/36問	64.6 (—)	6.1/14問	43.3 (—)
全道	合算	21.9/36問	60.9 (-3.7)	5.5/14問	39.1 (-4.2)

全道平均正答率との差	下回る	ほぼ同程度	上回る	下回る	ほぼ同程度	上回る
石 狩 市		○			○	

※ ほぼ同程度とは-3.0～+3.0ポイントの範囲

□ 領域・観点別正答率比較グラフ □



□ 数学科の概要 □

- 基礎的・基本的な知識・理解は、年々着実に向上定着
- 基本的な文字式や方程式の計算は、ほぼ定着
- 文字式や等式の変形、関数等についての理解に課題
- 基礎的知識の連携や論理的・発展的な考え方に課題

数学 A （主として「知識」に関する問題）

数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能の定着度を診る問題です。「数と式」は分数の計算、正の数・負の数、文字式、代入、方程式。「図形」は対称、平面図形と立体図形、円柱の体積、内角の和、条件と証明等。「数量関係」は比例・反比例、一次関数に関する出題となっています。観点として、数学に関する基礎的な表現・処理及び知識・理解を主とした出題となっています。問題数は36問です。

- 基本的な文字式や方程式の計算や解き方等は全国平均正答率とほぼ同程度または上回っています。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	3 (1) 方程式の解	$2x = x + 3$ についての正しい記述を選択する	56.5%	54.1%	55.2%
	7 (1) 命題と仮定	「 $AO=BO$, $CO=DO$ ならば $AC=BD$ である」の仮定をすべて書く	78.6%	76.9%	75.2%
	14 (2) 確率の意味	1枚の硬貨を投げるときの確率について正しい記述を選ぶ	72.0%	65.8%	63.7%

- 文字式、等式の変形、また、関数について数値の変化、 x と y の関係を式で表すなど、基本事項の理解と習熟に課題が見られます。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	2 (4) 文字式表現	2桁の自然数を表す式を選ぶ	57.1%	62.3%	65.9%
	2 (5) 等式の変形	等式 $2x + y = 5$ を、 y について解く	64.7%	66.8%	72.1%

- 具体的事象の関係を関数や方程式などで表し計算したり、分数の計算が課題です。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	3 (2) 一次方程式	$(x+1) \div 5 = 2$ を解く	53.2%	54.6%	58.1%

〈指導の改善にあたって〉

基礎的事項を定着するためには日常的に繰り返すことが大切です。意識的・計画的に演習するなど、反復学習によって定着に努めていきます。

	数学A	設 問	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
(例)	5 (4) 円柱の体積	円柱の体積を求める式と答えを書く	35.3%	35.8%	39.9%

数 学 B （主として「活用」に関する問題）

数量や図形についての知識・技能などを実生活の場面に活用する力や、さまざまな課題解決のために構想を立てて実践し改善する能力をみる問題です。領域では、「数と式」は情報の選択と処理・筋道を立てたり発展的に考え説明したり、「図形」は与えられた証明から仕組みを考えたり、成り立つ事柄の特徴を数学的表現を用いて説明する。「数量関係」も必要な情報の選択処理、数学的説明など、数学的見方や考え方を主にした応用・発展的出題になっています。

- ・ 個々の基礎的知識を連携させたり、論理的・発展的に考えたりすることに課題があります。
- ・ 無解答率が高くなっていることも課題です。

	数学B	設 問		石狩市	全 道	全 国
(例)	6 (1) 変化する数量 円柱の体積	長さや面積を表すグラフの特徴を説明する	正答率	33.5%	35.4%	38.4%
			無解答率	54.0%	52.5%	48.3%

〈指導の改善にあたって〉

- ・ 基礎的知識の充実、数式等の意味・成り立ち、筋道を立てて考えることなど、課題を整理・確認し、再度指導・確認に努めます。
- ・ 日常生活の中から数学的な考え方が導き出せるような取組に努めます。

教科に関する意識（質問紙の傾向）

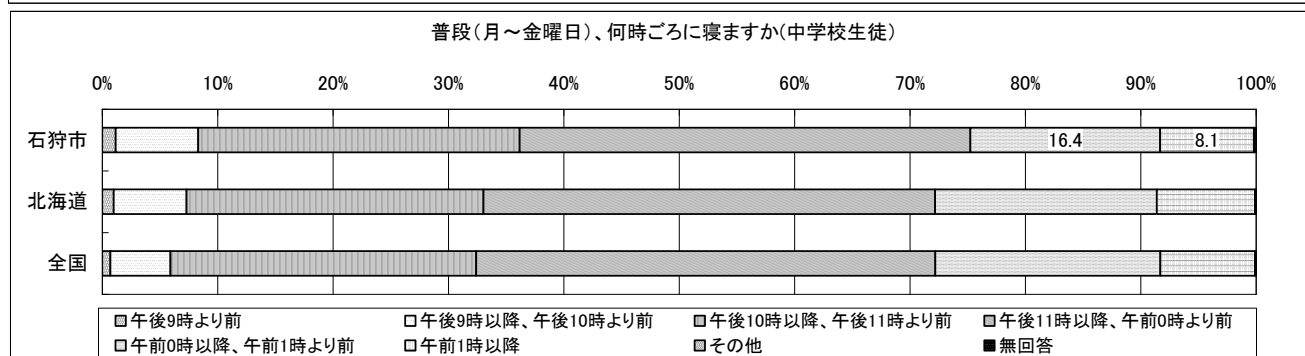
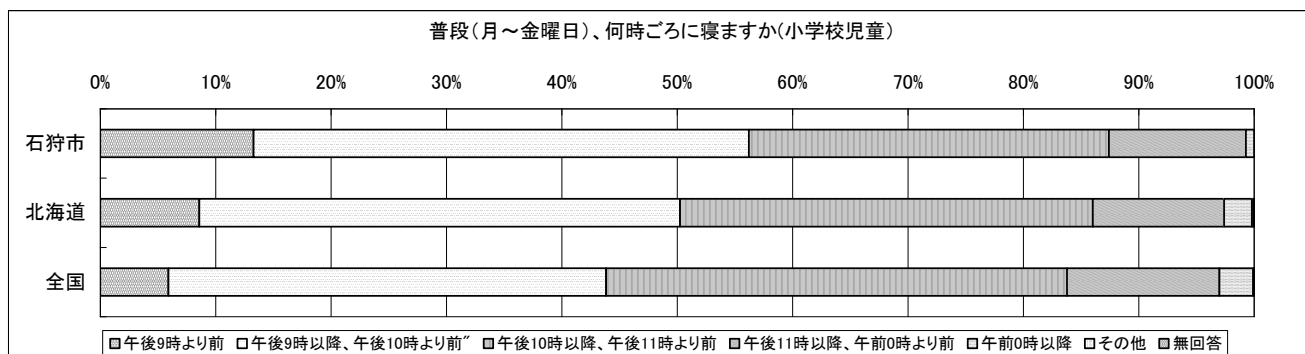
- ・ 「数学の勉強は好きですか」に対する肯定的回答は、全国の53.3%に対して、石狩市は49.5%と、やや低い結果が出ています。
- ・ 「数学の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的回答は、全国の79.3%に対して、石狩市は71.9%と、低い結果が出ています。
- ・ 「数学の授業内容はよく分かりますか」に対する肯定的回答は、全国の65.7%に対して、石狩市は57.5%と、低い結果が出ています。
- ・ 「数学ができるようになりたいと思いますか」に対する肯定的回答は、全国の92.2%に対して、石狩市は、88.2%で低い結果となっています。
- ・ 「問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的回答は、いずれも全国より数%低い結果が出ています。
- ・ 「最後まで解答を書こうと努力しましたか」に対する肯定的回答は全国よりも低く、数学A・Bともに無解答率も全体的に高くなっています。しかし、「解答時間は十分でしたか」に対しての肯定的回答は全国よりも高い数値が出ています。

基本的な生活習慣や家庭学習習慣について

就寝時間は、小学生、中学生ともに全国・全道よりも早め。

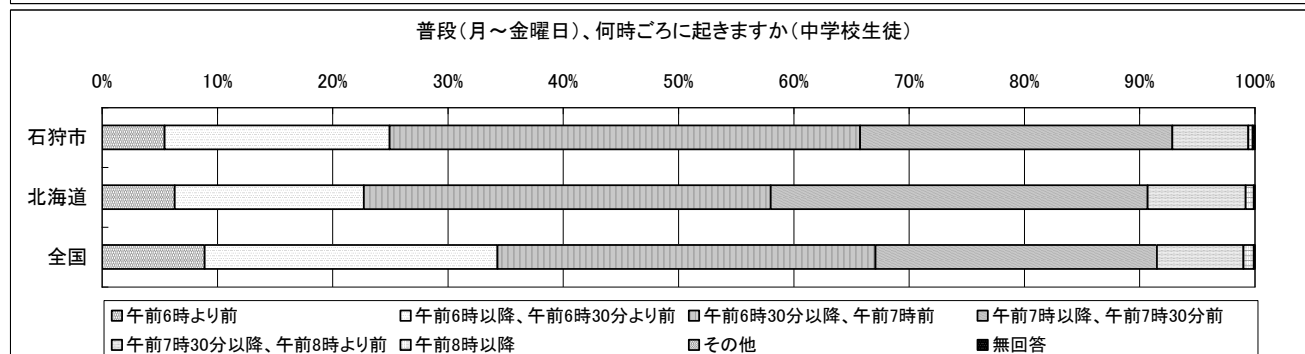
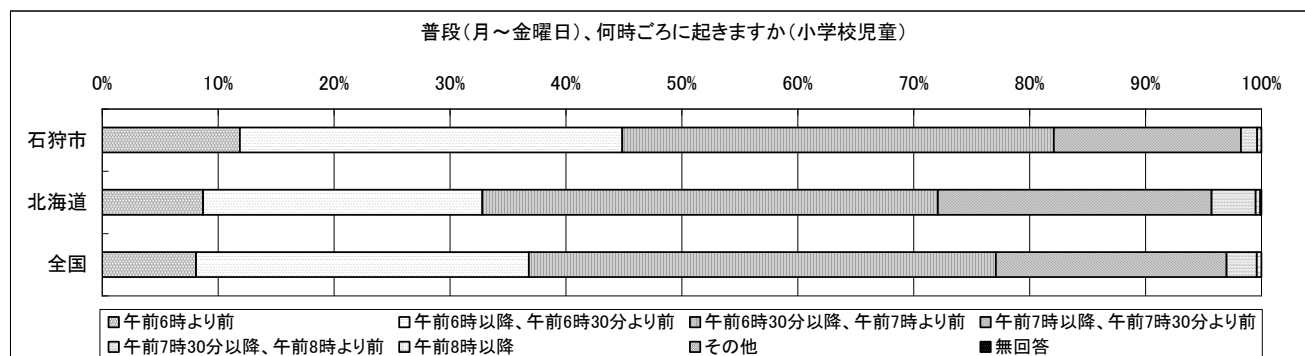
夜9時前に就寝している小学生は13.3%、10時前に就寝している中学生は8.4%。いずれも全国・全道より多い割合で比較的に就寝時間が早めの傾向にあります。

午前0時以降に就寝している中学生の割合は24.5%程度です。（全国・全道とも28%程度）



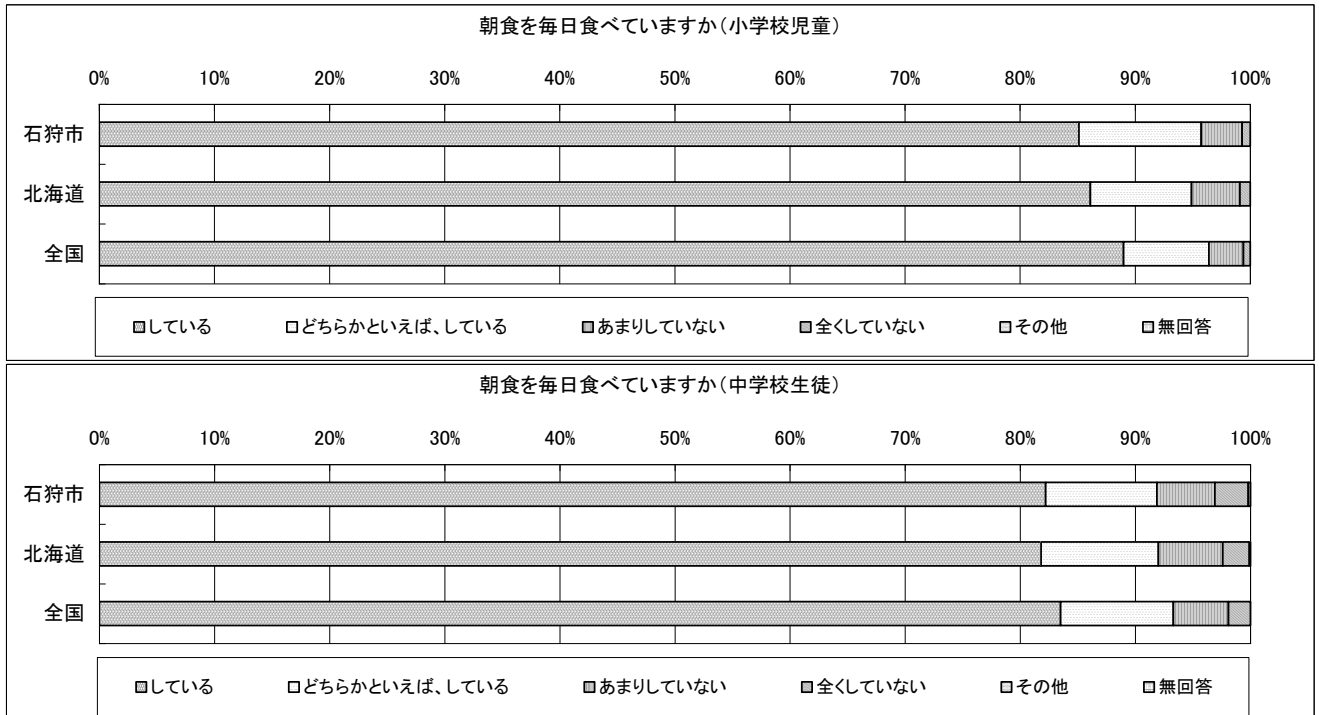
起床時間は、全国・全道より小学生はやや早め、中学校は全国よりやや遅めの傾向。

午前7時前に起床している小学生は82.1%、中学生は65.7%で、全国と比較して、小学生はやや早め、中学生はやや遅めの傾向にあります。



朝食を毎日食べている割合は、小学生・中学生ともに全国よりもやや低い。

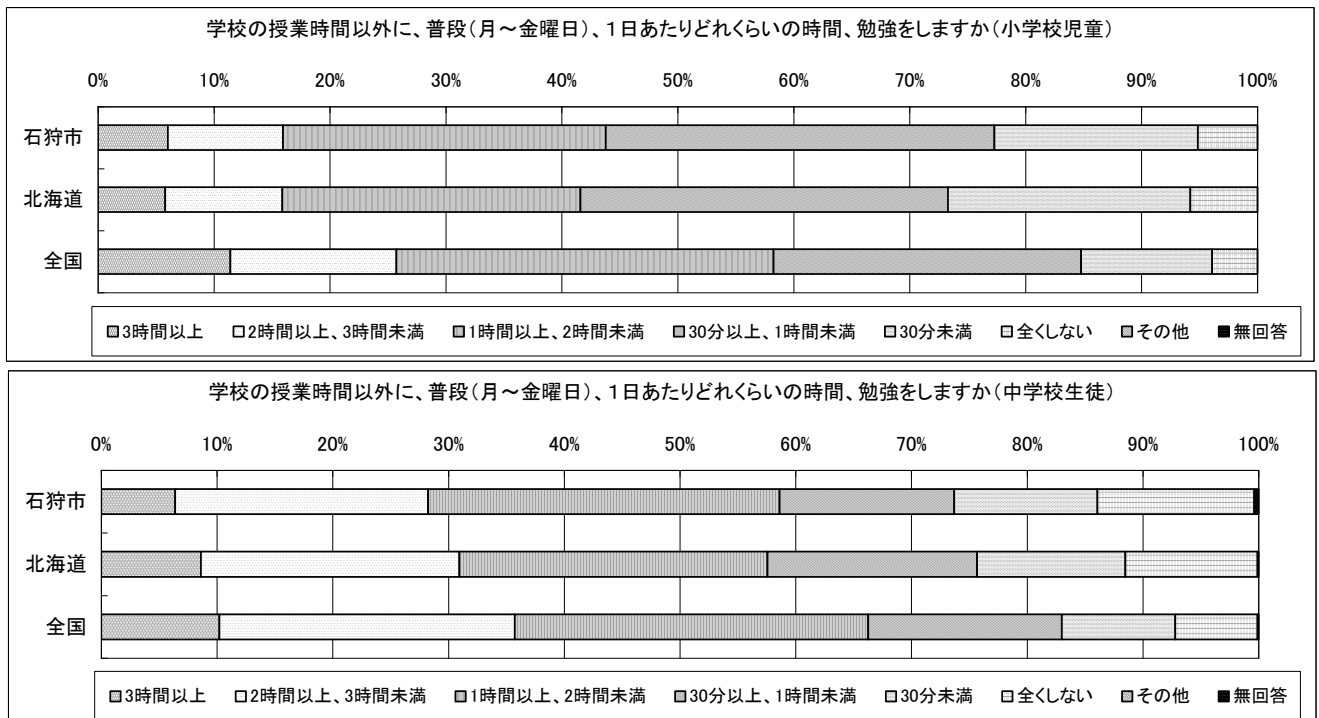
朝食を毎日食べている割合は、小学生では85.1%、中学生では82.2%で、いずれも8割を超えているものの、全国に比べて割合が低い状況にあります。特に中学生では、朝食を全く食べない割合が3%程度で全国・全道よりやや高い割合となっています。

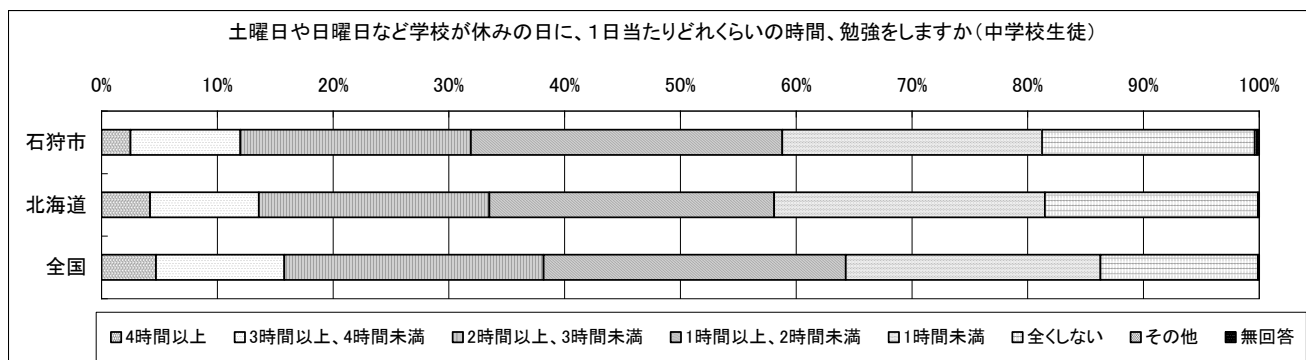
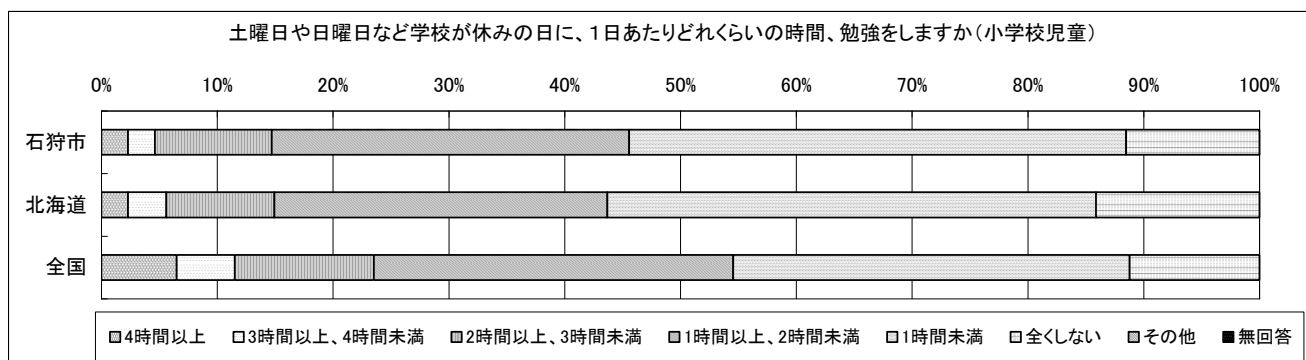


家庭学習時間は、全道とほぼ同様で全国よりは短い。小学生では昨年度よりやや増加。

平日(月～金曜)における家庭での学習時間は、小中学生ともに全国より短く、「全くしてない」と回答した割合は昨年度に比べてやや低くなったものの、小学生5.1%(21年度5.6%)、中学生13.5%(21年度14.0%)と全国を上回り、休日ではさらにその割合が高くなっています。

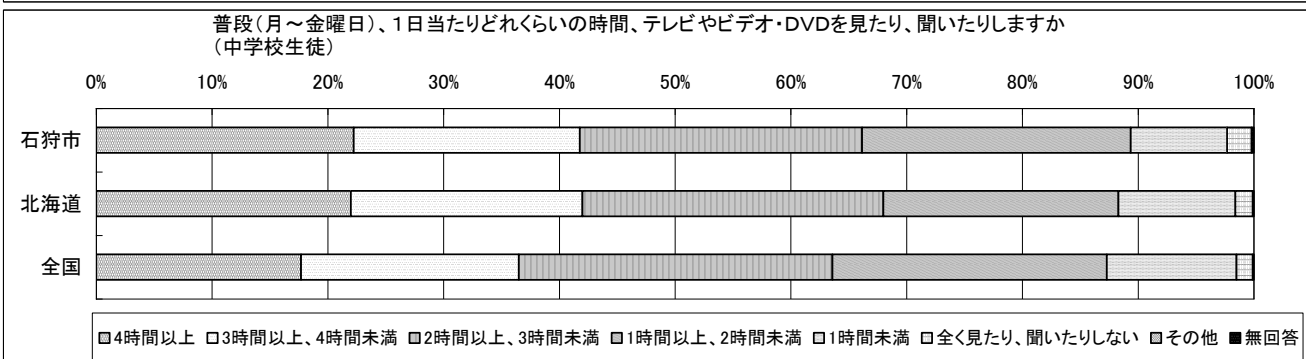
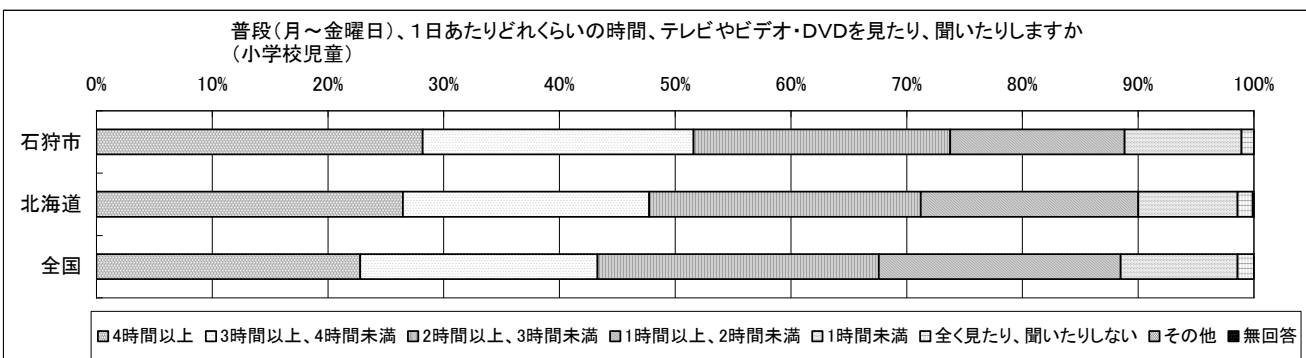
平日、休日ともに2時間以上家庭学習をする中学生の割合は30%前後で全国より低い割合となっています。1時間以上家庭学習する小学生の割合は45%前後で昨年度(40%程度)より増加していますが、依然として全国より低い割合となっています。

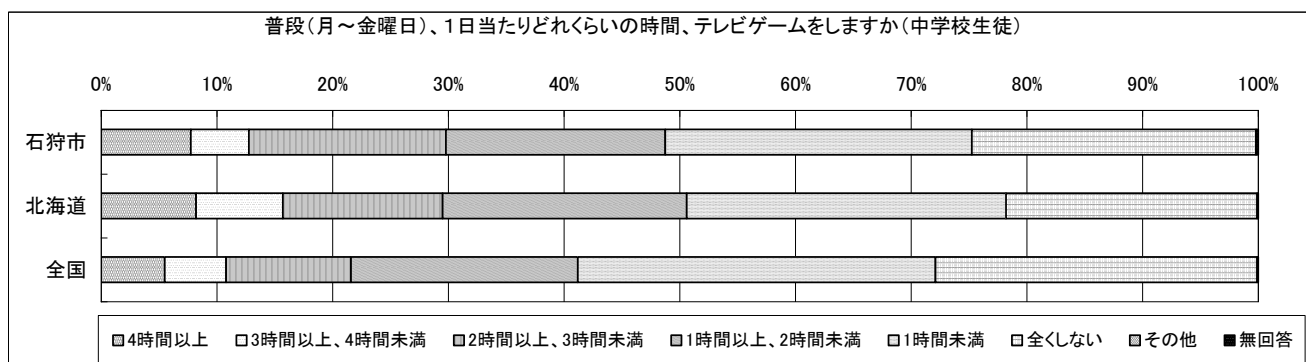
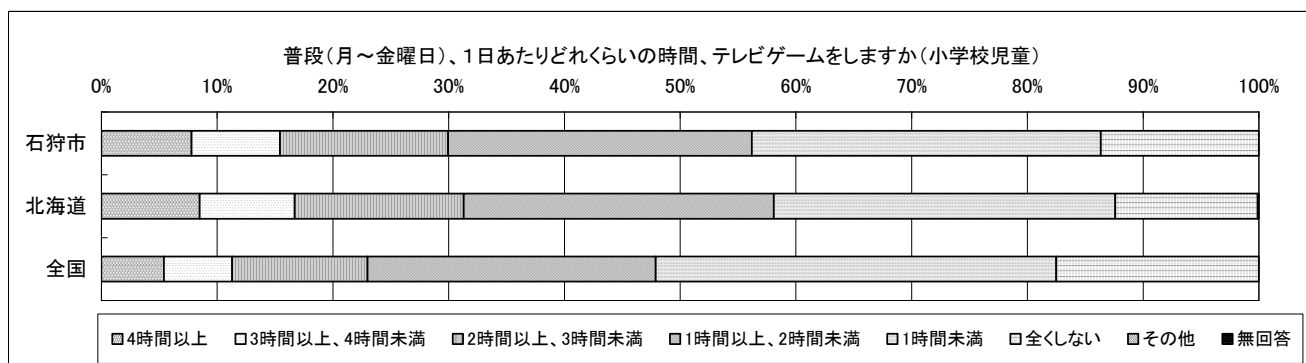




テレビやDVDなどを見る時間や、テレビゲームをする時間は長め。

平日にテレビ、ビデオ、DVDを見ている時間については、3時間以上見ている割合が小学生で50%を超え、中学生では、40%を超えており、ともに全国を上回っています。テレビゲームでは、2時間以上している割合が小中学生ともに30%程度で、全国と比べてかなり高い傾向にあります。





学習用具を準備する習慣は、ほぼ身についている。

学習用具の準備については、前日か当日の朝に確かめて登校する小中学生が70%を超えており、よい状況にあります。

